



BUNKYO

文教大学 越谷キャンパス

埼玉県越谷市南荻島 3337

教育学部／人間科学部／文学部

人間科学研究科／言語文化研究科／教育学研究科／専攻科／外国人留学生別科

文教大学 湘南キャンパス

神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100

情報学部／健康栄養部

情報学研究科

文教大学 東京あだちキャンパス

東京都足立区花畠 5-6-1

国際学部／経営学部

国際学研究科

文教大学付属中学校・高等学校

旗の台キャンパス

東京都品川区旗の台 3-2-17

文教大学付属小学校

石川台キャンパス

東京都大田区東雪谷 2-3-12

文教大学付属幼稚園

旗の台キャンパス

東京都品川区旗の台 3-2-17



BUNKYO ACTION PLAN 2021



CONTENTS

■ ビジョンマップ	3
■ 実施報告	
大 学	5
中学校・高等学校	7
小学校	9
幼稚園	11
経営・管理	13
■ 中長期計画の推移	14
■ 第4次中期経営計画の策定に向けて	14
■ 建学の精神「人間愛」	14

～はじめに～

文教大学学園は1927年の創立以来、大学を中核として付属幼稚園から大学院までを有する学習者総数約1万人の総合学園に発展し、2017年には創立90周年を迎えました。こうした学園の発展は社会全般からのご支援の賜物であり、改めて厚く御礼を申し上げます。

文教大学学園は、学園の抱える諸課題に対応するため、「教育リーディング・ユニバーシティ文教～教育力トップを目指す～」をビジョンフレーズとして、2009年度から「学園経営戦略 第1次中期経営計画(2009-2012)」、「同 第2次中期経営計画(2013-2016)」を推進してまいりました。2017年度からはこれまでの学園経営戦略から学園のミッション「『人間愛』の教育」及びビジョン「～教育力トップを目指す～」を継承した、第3次中期経営計画である「文教アクションプラン2021」を実行してまいりました。

本冊子は、「文教アクションプラン2021」において計画した事業の推進状況を取りまとめ、主な事業の成果を紹介するものです。

2020年度末で終了した「文教アクションプラン2021」は、学園各校の「改革推進の実質化」を図ることを主眼とし、各校の4年後の目標、達成目標及びアクションプランを、その主体たる各校が策定し、経営部門は財務等の面で各校を下支えする構造を明確にしました。理事会は年に一度、各担当から進捗状況の報告を受け、各アクションプランに設定している達成指標に照らして進捗度合いを測るとともに、専任教職員に対し情報公開及び意見募集を行い、計画・実行・評価・改善のPDCAサイクルを回していくことで各校の計画推進を支援しました。これにより学園全体における志願者獲得や教育力・進学実績・就業力の向上、経営における財政基盤の安定等の各種課題に対し、成果をあげてまいりました。

そんな中、「文教アクションプラン2021」の期間中において最も大きな事業は、大学の「東京あだちキャンパス」の開設でした。2015年3月に東京都足立区花畑に約48,800m²の土地を取得。2019年4月の着工から約2年の期間を費やし、2021年2月に建築工事が完了し、2021年4月からの開設となりました。東京あだちキャンパスには湘南キャンパスより国際学部と経営学部が全学年で移転し、文教大学は従来の越谷・湘南両キャンパスを含めた、1都2県にまたがる3キャンパス体制となりました。東京あだちキャンパス開設計画に基づき、引き続き学長のもと、大学の検討体制により、今後、学部等の再編や教育力の強化を具体的に進めてまいります。

これまで中期経営計画を3期12年に渡り実行してまいりましたが、従来の予想を上回る速度と規模で高度化・多様化・グローバル化が進行し、大学等教育機関に対する社会のニーズも急速に変化している状況下、学園の更なる発展のためには新たな中期経営計画の策定による、全学的・抜本的な教育力強化が極めて重要な課題であると認識しています。

今般の私立学校法改正では、中期的な計画の作成が義務付けられました。学校法人のガバナンス強化とともに、教育の質の向上を図ることが求められています。次期中期経営計画の策定においても法改正の趣旨に沿って学園の課題を適切に設定し、着実に成果をあげられるよう、努めてまいります。今後もいっそうのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



文教大学学園 理事長

野島 正也

『文教アクションプラン2021』構成及び実施体制

I. アクションプラン

『文教アクションプラン2021』では各校の改革推進の実質化を図るために、推進主体である各校が学園の「4年後の目標」のもと、下記①～④を策定し、実行しました。

また、「経営・管理」は各校のこうした計画を財務等の面で下支えする体制としています。

- ①「4年後の目標」 4年後に各校が「目指している姿」を設定
- ②「達成目標」 「4年後の目標」が達成しているかどうかを判断・評価するための目安となるものを設定
- ③「4年後の具体目標」 各カテゴリーで可能な限り絞り込んだ具体的に目指すものを設定
- ④「アクションプラン」 具体目標を実現するための施策を設定

II. ビジョンマップ

学園の「ミッション」及び「ビジョン」に基づいた学園全体の「4年後の目標」と「達成目標」を設定し、そこから各校との連携及びアクションプランとの繋がりをわかりやすくするためにマップ化しました。

III. 実施体制

各校が主体となり、各アクションプランを実行しました。

理事会は「経営・管理」のアクションプランを実行していくことと合わせて、評価・改善の部分でも関わることで、各校の計画推進の支援を行いました。

IV. 進捗管理

PDCAサイクルで、計画・実行・評価・改善を行なうことで、計画を推進しました。各校から年1回、理事会にアクションプランの進捗や達成状況について報告をすることで、達成状況の評価を行い、支援の要・不要を判断し、支援が必要な場合は、各校と理事会で相談し、最適な方法を模索し支援を行いました。

ミッション

『人間愛』の教育

ビジョン

～教育力トップを目指す～

○ていねいに、たくましく育てる文教
○地域・社会・世界につながる文教

4年後の目標

総合学園の維持・発展

- 「キャンパス新構想」の着実な実現へ
- 教育インフラの充実を図り、強い競争力を実現する
- 財政を強化し、学園の更なる発展のための基盤を整備する
- 社会のニーズに応えられる文教ブランドを確立する

達成目標

学習者1万人以上
学習者の満足度90%以上

大学

中学校・高等学校

小学校

幼稚園

4年後の目標

東京あだちキャンパス開設を
契機とする大学の発展達成目標 有機的に連携した3キャンパス体制を
2021年度に実現する

【アクションプラン】

キャンパス新構想

- キャンパス新構想の実現と更なる深化

募集

- 高大接続改革に伴う入試制度の構築

教育

- 教職課程の整備と更なる充実

研究

- 研究支援体制の強化とコンプライアンスの推進

学生生活

- 学生支援室の更なる充実と、学習支援体制の構築

地域・社会連携

- 連携活動に関するマネジメント体制の確立

内部質保証

- 内部質保証推進体制の構築

生徒生活

- 豊かな人間性と強い心の育成
- 基本的生活習慣の確立

4年後の目標

「慈愛の心」「輝く知性」「世界に飛翔する力」の育成
●進学実績の向上と、教育力の向上を図る
●豊かな人間性と、強い心を育む
●グローバルに活躍できる力を培う
●入試広報の充実を図る達成目標 国公立大学、早慶上理、GMARCH
合格者計130人以上

【アクションプラン】

募集・広報

- 志願者数の増加(定員の充足)
- 入学者の質の確保

進路・キャリア

- 進学実績の向上
- キャリア教育の充実
- 文教大学との連携

教育

- 生徒の学力の向上
- 新教育課程の構築

地域・社会連携

- ボランティア活動の推進

研究

- 教員の指導力の向上

国際交流

- コミュニケーション力の向上
- 海外語学研修・留学・進学の充実

生徒生活

- 豊かな人間性と強い心の育成
- 基本的生活習慣の確立

4年後の目標

「ふるさとのような小学校」唯一無二の
豊かな教育・選ばれる学校の確立達成目標 定員50名に対し、安定した倍率・志願者の確保
保護者の満足度9割以上の維持

【アクションプラン】

募集・広報

- 倍率3倍以上の志願者の確保

児童生活

- 人間愛あふれる文教っ子
「大切な八か条」に基づく豊かな教育の実践と推進

教育

- 自ら学び続ける子どもを育てる教育の実践
- グローバルに羽ばたく子どもを育てる教育の推進

進路指導

- 一人一人の夢を実現させる進路指導
- 進学校への輩出

研究

- 1時間ごとに成長できる学校「深い学び」の推進
- 文教大学付属小学校型アクティブラーニングの確立

保護者・地域連携

- 学校教育と家庭教育の連携
- 地域に貢献し地域に愛される私立小学校としての確立

幼稚園

4年後の目標

「選ばれ続ける幼稚園」の実現

達成目標 入園者60名の確保
保護者の満足度9割以上

【アクションプラン】

募集・広報

- 安定した入園者の確保

進路支援

- 付属小学校を含めた希望の小学校への進学実現

教育

- 「生きる力の土台を広げる教育」の推進

保護者・地域連携

- 「保護者との連携重視の幼稚園」と「地域ニーズに応える幼稚園」の発信

研究

- 時代の変化に対応した幼稚園の在り方の構築

園児生活

- 「素直で明るい元気な子ども」の永続的な実現

経営・管理

【アクションプラン】

教育環境

- 競争力を持った教育環境の整備

財政

- 強固な財政基盤の確立

組織

- 変化に対応できる組織力の強化

広報

- 戦略的広報活動の展開

東京あだちキャンパス 開設を契機とする大学の発展

達成目標

- 有機的に連携した3キャンパス体制を2021年度に実現する



[達成度]

各施策項目で検討した、目標等に向けた取り組みなど、工程の進捗結果(2021年3月31日まで)がどの段階にあるかをバーセントで示したものです。
[20%]:構想段階 [40%]:素案を策定 [60%]:実施計画を策定
[80%]:プログラム、制度、組織、施設等の具体的な計画を実行中
[100%]:プログラムの開始、制度の創設、組織の設置、施設の完成等、計画のすべてを達成

カテゴリー / 4年後の具体目標	No./ アクションプラン	具体的な取り組み内容	達成度
キャンパス新構想	A101 地域連携の強化	○足立区を中心とした教育行政との連携関係構築・強化	95%
		○新キャンパス周辺大学との連携関係構築・強化	95%
		○足立区周辺で大学から地域向けの企画実施、情報発信	95%
	A102 教育力の強化	○全学共通教育プログラムの導入	100%
		○キャンパス間の時間割統一	100%
		○ICTを活用した教育の充実	100%
	A103 志願者確保対策の強化	○新キャンパス開設に伴う指定校戦略の立案	100%
		○外国人留学生募集戦略の立案	90%
	A104 教育・研究体制の整備	○3キャンパス体制を見据えた湘南校舎の教育・研究体制の整備	20%
		○各センター機能の充実	70%
募集	A105 新たな選抜制度の確立	○平成32年度以降のAO・推薦・一般入試・大学入学共通テスト制度変更の理解	100%
		○AO・推薦・一般入試・大学入学共通テストへの対応	100%
	A106 全国入試特待生制度の効果的な実施	○現行制度の検証	60%
教育	A107 課程認定基準に基づいた教育課程の編成・運営	○再課程認定申請と新課程への円滑な移行	90%
		○教員養成課程運営委員会体制整備と全学組織の機能充実	90%
	A108 教職課程運営体制の整備	○関係自治体との連携による教員養成力の強化	90%
研究	A109 関係自治体との連携による教員養成力の強化	○学校等、教育現場との連携による学習の場の充実	90%
		○産業界・行政・他の教育機関からの研究ニーズの把握	50%
	A110 研究活動を充実させるための組織の在り方の検討	○受託研究、共同研究支援、実施体制の構築	50%
学生生活	A111 企業・自治体からの研究費獲得のための環境の整備	○研究倫理教育の徹底と公的研究費の着実な管理	50%
		○研究倫理教育の徹底と公的研究費の着実な管理	50%
	A112 コンプライアンスの推進	○研究倫理教育の徹底と公的研究費の着実な管理	50%
地域社会連携	A113 学生支援室を中心とした学生支援体制の充実	○学生支援室の課題確認と検証	80%
		○校舎間での学生支援に係るノウハウの共有	80%
内部質保証	A114 学習支援体制の在り方の取りまとめ	○各学部や学生のニーズの把握	80%
		○学習支援体制の検討	80%
A115 学外との連携体制の確立	○連携活動を充実させるための組織の在り方の検討	100%	
	A116 第3期認証評価に対応した体制の整備	○学内の点検・評価体制の見直し	100%
		○PDCAサイクルの構築と継続	100%

主な実施状況について

A101 地域連携の強化

東京あだちキャンパスが開設になる2021年4月に向けて、地域連携の強化として、以下の3つの施策を実行してきた。

①足立区を中心とした教育行政との連携関係構築・強化

2017年6月、足立区と包括協定を締結したことからはじまり、学内において、行政との連携事業を推進するために課題整理し、連携事業を推進するために、現行センターの再編を検討した。2020年4月、生涯学習センターを改組し、地域連携センターを設置した。東京あだちキャンパス開設前の2020年10月、草加市とも連携事業を開始した。

【評価】行政をはじめキャンパス周辺の企業や足立区の施設等との情報交換や交流を通じ、新キャンパス開設以降の連携関係の基盤を構築。学内においては教学組織及び事務組織改組により、2020年4月までに自治体(キャンパス周辺地域)・他大学・企業等との連携事業推進のための体制を整備することができた。

②新キャンパス周辺大学との連携関係構築・強化

2018年8月、学長と足立区で、足立区に設置されている大学との連携に関しての意見交換を実施したことを皮切りに、現行センターの再編を検討した。2019年2月、放送大学と単位互換協定を締結し、2020年4月、生涯学習センターを改組し、地域連携センターを設置し、2020年8月から、足立区と区内大学による連携会議に参加し、連携事業を開始した。

【評価】学長を中心に、足立区および区内大学関係者と定期的にコミュニケーションを図り、関係作りは順調に構築している。足立区及び6大学間の協定締結には至っていないが、放送大学とは単位互換協定を締結することができた。

③足立区周辺で大学から地域向けの企画実施、情報発信

教育学部において、「放課後学校」をはじめ「子どもの学習支援」、「子どもの居場所づくり」など地域貢献事業を順次実施。国際学部は、学術的な地域連携事業を計画し、予備調査や研究を開始し、経営学部は、高大接続改革をテーマにセミナーを開催したり、足立区の区民向けリレー企画に参加している。

【評価】足立区が実施する各イベントに出席し、区内関係者と情報交換や交流を実施し、足立区と連携し、区民向けの公開講座開講等の事業を継続的に実施し、各事業には本学の学生や教職員が参加し、地域との交流を深めることができた。

A102 教育力の強化

東京あだちキャンパスが開設になる2021年4月に向けて、教育力の強化として、以下の3つの施策を実行してきた。

①全学共通教育プログラムの導入

全学共通科目導入案を策定(BBC構想)し、「全学共通教育プログラム検討委員会」を設置、新設科目の検討等を開始した。2020年4月、3キャンパス体制を見据えて教務委員会を全学組織に改編し、共通教育委員会を新設し、新設科目を含むカリキュラムを検討し、2021年度から7学部共通の共通教育科目に関して、枠組みのとりまとめをおこなった。

【評価】3キャンパス体制への移行に向けた教学組織の改組と併せ、各学部カリキュラムを全学の視点で検証し、7学部統一カリキュラムの枠組みを構築、共通化への基盤を整えることができた。なお、全学共通科目の開設は2022年度を目標とし、検討を継続していく。

②キャンパス間の時間割統一

関係委員会及びセンターへ意見聴取を行い、時間割統一方針を検討し、2018年12月 2021年4月からの時間割統一案を決定した。

【評価】2021年4月から、東京あだちキャンパス開設に伴い、大学3キャンパス体制へ向けた大学運営における基盤を整備することができた。

③ICTを活用した教育の充実

Eラーニングによる科目履修の可能性について情報収集し、教育研究系情報システム検討委員会を設置・検討し、2021年度からのグランドデザイン案の取りまとめを行い、2020年3月、グランドデザインに基づく次期教育研究系情報システムやLMSの導入を決定。2020年4月からICTを活用した教育を本格運用した。

【評価】校舎間の教育研究系情報システムにおける様々な差異について共通化を図り、2020年度から順次運用を開始した。2021年度以降、東京あだちキャンパスも含め、いずれのキャンパスにおいても同様のシステム運用ができる環境を整備。また、全学で統一してシステムを運用するため、全学情報センターを設置した。

A104 教育・研究体制の整備

東京あだちキャンパスが開設になる2021年4月に向けて、教育・研究体制の整備として、以下の2つの施策を実行してきた。

①3キャンパス体制を見据えた湘南校舎の教育・研究体制の整備

2018年4月、将来構想委員会を設置し、課題内容の検討を開始し、継続的に課題解決に向けて検討を行っているが、3キャンパス体制に向けた学内の体制や関係規程等も合わせて整備する必要があり、段階的に進めている。

【評価】3キャンパス体制に向けた教学及び事務組織の改編状況等を踏まえ、2021年度4月に向けて、現行の教育・研究体制の維持を目標に進めてきた。諸課題について検討を継続する。

②各センター機能の充実

2018年4月から各センター機能の充実に向けて、課題整理及び検討を開始。2019年2月、3キャンパス体制を見据えた委員会及び図書館の改編方針を決定し、センター組織改編の検討を開始した。2020年4月、全学委員会を設置し、生涯学習センターを改組し、地域連携センターを設置。2020年7月、センターにも配置可能な教員制度を新設。2021年1月、各キャンパスの保健センター及び情報センターを全学組織に改編。2021年2月、教職支援センター(仮称)及び語学支援センター(仮称)設置に向けた検討結果の取りまとめを実施した。

【評価】学生の教育活動支援、キャリア支援のさらなる充実のため、地域連携センターの設置や、保健センター及び情報センターの全学組織化など、3キャンパス体制へ向けた体制を整備することができた。

A116 第3期認証評価に対応した体制の整備

内部質保証推進体制の構築を目指し、①学内の点検・評価体制の見直し、②PDCAサイクルの構築と継続について実行してきた。2018年4月、次期認証評価に向けた課題整理等を開始し、2019年4月から、内部質保証に関するFD研修会を開催した。その後、内部質保証方針及び手続についての見直しを継続的に行っている。内部質保証に関しては、PDCAサイクルの構築に向けて点検評価体制の検討を実施とともに、具体的なPDCAサイクルの構築を行った。2020年7月、「文教大学内部質保証の推進に関する規程」を制定し、内部質保証推進組織及び体制を整備した。

【評価】内部質保証方針の見直しや必要な規程の制定を行うことができた。また、内部質保証のためのPDCAサイクルの構築については、実施イメージも確定し、実施に向けた体制を整えることができた。

中学校・高等学校

「慈愛の心」「輝く知性」 「世界に飛翔する力」の育成

- 進学実績の向上と、教育力の向上を図る
- 豊かな人間性と、強い心を育む
- グローバルに活躍できる力を培う
- 入試広報の充実を図る

達成目標

- 国公立大学、早慶上理、GMARCH
合格者計130人以上



[達成度]
各施策項目で検討した、目標等に向けた取り組みなど、工程の進捗結果(2021年3月31日まで)がどの段階にあるかをパーセントで示したもの。[20%]:構想段階 [40%]:素案を策定 [60%]:実施計画を策定 [80%]:プログラム、制度、組織、施設等の具体的な計画を実行中 [100%]:プログラムの開始、制度の創設、組織の設置、施設の完成等、計画のすべてを達成

カテゴリー / 4年後の具体目標	No./ アクションプラン	具体的な取り組み内容	達成度
募集・広報	B101 募集・広報活動の強化	<p>【募集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校説明会や体験学習の充実 ○公立中学校や塾への訪問活動推進及び連携強化 ○外部相談会への積極的な参加 <p>【広報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホームページの充実 ○学校案内等の広告媒体の充実 ○内部広報の強化 <p>【入試制度改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時代のニーズに合った入試制度改革 	85%
教育	B102 外部模試偏差値の向上	○外部模試の目標設定、実施、及び分析	50%
	B103 「確かな学力」を育む、新教育課程の作成	<ul style="list-style-type: none"> ○次期学習指導要領に沿った中学の新教育課程の作成 ○次期学習指導要領に沿った高校の新教育課程の作成 	80%
	B104 英語検定の取得結果の向上	○英検対策の実施	85%
研究	B105 校内研究授業の充実	○研究授業の実施	95%
	B106 校外研修の推進	○校外研修会への参加促進	95%
生徒生活	B107 学校行事の内容の充実	○学校行事(体育祭、白百合祭、合唱コンクール、修学旅行等)の内容の充実による、豊かな人間性と強い心の育成	97%
	B108 自宅学習時間の確保と、生活指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○学習時間調査と生徒への指導を行い、自宅学習時間の確保 ○時間厳守、遅刻者の減少による皆勤者の増加 ○挨拶の励行と、身だしなみ指導の徹底 	97%
進路・キャリア	B109 学習・進路行事やガイダンスの充実と、生徒カルテの構築	<ul style="list-style-type: none"> ○学習・進路行事の充実により、生徒に進学の目的を明確化 ○進路ガイダンスの推進 ○生徒カルテの構築と活用 	80%
	B110 「文教キャリア教育プログラム」の実施と進化	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年で学校行事及び、総合的な学習の時間などを活用した「文教キャリア教育プログラム」の実施 ○1年間の学習の集大成として、総合学習発表会の実施 	100%
	B111 体験授業と、教員間の意見交換会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○文教大学の先生方による体験授業及び教員間の意見交換会の実施 ○希望者による文教大学キャンパス訪問 	100%
地域社会連携	B112 清掃活動、地域の祭り手伝い、交通安全パレード、募金活動等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアクリーンアップ ○毎朝の近隣清掃活動、地域の祭り手伝い ○地域の交通安全パレード ○幼稚園の祭り手伝い ○募金活動 	95%
国際交流	B113 留学等のための事前・事後指導の充実と、華語講座の継続	<ul style="list-style-type: none"> ○オーストラリア短期語学研修・中長期留学と、事前・事後指導の継続実施 ○セブ島英語研修(7日間)および事前・事後指導 ○台湾の大学進学をめざす華語講座、台湾への進学に関する説明会の継続 ○参加者の増加をめざして、経験者と希望者間の意見交換会の実施 	100%
	B114 外国人教員の活用と、「オンライン英会話」の開始	<ul style="list-style-type: none"> ○TOEFL Junior等の取得の奨励 ○外国人教員(JET教員等)の活用 ○中学生 放課後「オンライン英会話」を計画し、2018年度から実施 	100%

主な実施状況について

B101 募集・広報活動の強化

志願者数の増加へ向けた募集・広報活動の強化として、以下3つの項目に分け、実行した。

○募集

毎月、学校説明会をはじめとした入試関連イベントを計画的に実施し、放課後は希望者を対象に学校見学を実施。外部相談会、予備校等の情報交換会に積極的に参加し、説明や連携を図るだけでなく、教員全員が手分けして公立中学校300校、塾700校訪問、募集活動を行った。2020年度においては、対面とオンラインを併用した「ハイブリッド型説明会」を複数回実施した。

○広報

2017年のホームページ全面リニューアルから始まり、2019年、LINEアカウント開設、2020年、インスタグラムのアカウントを開設し、積極的に情報を発信した。

○入試制度改革

2018年12月、帰国生入試を開始。2020年度には高校第3回入試(新型コロナウイルス感染症による受験機会の確保を兼ねる)を新設し、志願者の拡充を図った。

【評価】入試広報部を中心に学校説明会や体験イベントを多数実施し、外部会場での説明会には他校の2倍以上の教員を派遣、全教員が公立中学や塾訪問を行って精力的に広報活動を拡大してきた。その結果、中学入試は過去最高の志願者数を獲得した。

B103 「確かな学力」を育む、新教育課程の作成

次期学習指導要領に沿った新教育課程の検討・作成を行った。

○中学

2017年度に検討・作成し、2018年度から新教育課程にて授業を実施。「ナナガク」と称して、生徒が希望選択できる講習を火曜と木曜の7時間目に配置した。英数国基礎講座、発展講座や、英語の話す・聞くを重視した「オンライン英会話」(フィリピン在住の英語ネイティブスピーカーとマンツーマンで会話)、「ライブ英会話」(ネイティブと生徒数人でグループ英会話)、英検対策講座等を開設。中学生のうちから主体的に学習に取り組む姿勢を培うことを目的とした。また、2020年度後半には新教育課程の成果・課題などの検証を行った。

○高校

2018年9月、カリキュラム委員会を設置し、作成を開始。2019年9月には今後の方向性、全体像を創造するため、「新構想プロジェクト」を立ち上げた。「新構想プロジェクト」の構想の下で、本校の進むべき方向性を考えたうえで、新教育課程を作成し、2019年度に検証作業を開始した。2021年1月、骨格が完成し、2021年7月に完成予定。

【評価】中学は、新教育課程での実施が進んでおり、方向性も検討済みである。高校は、新教育課程に関する文部科学省等からの通知を踏まえ、2021年7月頃の完成を目指す。

B104 英語検定の取得結果の向上

中1で英検5級、中2で4級、中3で3級取得を目指してきましたが、2018年度から高校推薦入学者の推薦加点基準を英検3級から準2級に上げたことを踏まえ、中3で準2級を取得できるよう指導方針を変更した。また、中1～高3の各クラス別英検取得級別人数合計表を作成し、毎年度

末の職員会議で配布することで、教員全体で共通理解している。学校全体の英検取得状況を全教員が把握することで、6年間一貫した英検への取り組み、指導が可能となった。

【評価】高3で英検2級取得率40%という高い達成目標にも関わらず、英語科教員と生徒の努力で取得率が大幅に上昇、2019年度には36.5%に達し、準1級を4人が取得するという好成績を収めた。また、2021年1月には準1級の1次試験に高3の10人が合格する快挙を遂げた。

B107 学校行事の内容の充実

教育活動での人間形成において、学校行事の重要性は高いと考えており、事前学習や事後の振り返り学習を通して、協調性、リーダーシップ等を養う。2016年には「知・徳・体」の3つを鍛えることを目的とした中学生対象のトリニティーキャンプを新設した。1年生は農業体験やラфтティング、2年生は民泊、3年生は登山や和紙漉き、宿坊体験などを実施。仲間と協力しながら、粘り強く頑張り続けることができる心と体を育成する。そのほか、体育祭や文化祭、1年間の学習の成果を発表する総合学習発表会(中1～高2)、合唱コンクール、英語スピーチコンテスト(中3～高2)など年間を通じて生徒を主体とした行事を実施した。

【評価】学校行事の満足度調査の結果、2020年度には90.2%と、高い満足度を得られた。2019年度からは活動の主体を生徒とし、自主性の大切さを教え、自分で考え、行動させることで自主性の伸長が見られるようになってきている。

B110 「文教キャリア教育プログラム」の実施と進化

2017年度から、(株)リクルートと共同で開発した自主作成教科書「NEWTON」を生徒に配布。総合的な学習の時間などで活用しており、毎年2月に総合学習発表会にて1年間の各学年の成果を発表、共有した。

【評価】自主作成教科書「NEWTON」は、キャリア教育における「2018年度文部科学大臣表彰」を受賞した。また生徒へのキャリア教育の満足度調査の結果、2018年度82%、2019年度81%と高い満足度を得られた。

B114 外国人教員の活用と、「オンライン英会話」の開始

2018年4月、中学2、3年生の希望者を対象に放課後の「オンライン英会話」を開始した。4～7月は46人、9～12月は36人が受講し、フィリピン在住の英語ネイティブスピーカーと生徒のマンツーマンのオンライン学習を行った。2019年度にはタブレットPCを所有する中1を対象に「オンライン英会話」を、英語の授業時間内にて実施(年10単位時間)。2020年4月には、外国人講師を常駐の教員として採用し、オンライン授業や学校説明会を担当するだけでなく、教員の意識改革を行った。

【評価】フィリピン在住の英語ネイティブスピーカーと生徒のマンツーマン英会話は好評を博した。2019年度からは、タブレットPCを持つ中1では授業内に位置づけ、さらに進展させることができた。また、外国人教員が職員室に常駐し、職員会議、英語科教科会に出席することで教員の意識が変化、指導方針を見直すことによって、生徒との信頼関係の深まりが相談件数の増加という形で表れている。

小学校

「ふるさとのような小学校」 唯一無二の豊かな教育・ 選ばれる学校の確立

- 定員50名に対し、安定した倍率・志願者の確保
- 保護者の満足度9割以上の維持



【達成度】

各施策項目で検討した、目標等に向けた取り組みなど、工程の進捗結果(2021年3月31日まで)がどの段階にあるかをパーセントで示したものです。
[20%]:構想段階 [40%]:素案を策定 [60%]:実施計画を策定
[80%]:プログラム、制度、組織、施設等の具体的な計画を実行中
[100%]:プログラムの開始、制度の創設、組織の設置、施設の完成等、計画のすべてを達成

カテゴリー / 4年後の具体目標	No./ アクションプラン	具体的な取り組み内容	達成度	
募集・広報	C101	顕在層 (学校説明会や幼稚教室訪問で出会える層)からの志願者の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚教室への訪問の拡大 ○在校児童の活動を反映した動画の工夫 ○在校児童と来校未就学児とのふれあいの場の設定 ○5回におけるそれぞれに特色を持たせた学校説明会の工夫と実施 ○幼稚教室における本校単独説明会を実施 	100%
	C102	潜在層 (受験しようか迷っている層・受験は考えていないが私立小学校に入れることができる層)からの志願者の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園・保育園訪問の拡大 ○受験雑誌への出稿 ○書店売り冊子への出稿 ○接觸保護者への本校行事お誘いの郵送 	100%
教育	C103	確かな学力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> ○文教大学付属小学校型アクティブラーニングの構築 ○全国学力調査(CRT)の実施 	90%
	C104 ①	グローバルな人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○オーストラリアへの短期留学の継続実施 	50%
	C104 ②		<ul style="list-style-type: none"> ○TOKYO GLOBAL GATE WAY(英語村)への参加 ○イングリッシュタイムの導入 ○英語口ボットの導入 ○英語電子辞書の導入・活用 ○英語の絵本コーナー設置 	90%
研究	C105	魅力的な授業創り・授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○全教員が年に1回～2回、研究授業を実施 ○授業力アップ講座年間2回実施 ○全教員が外部研修会に参加及び研修内容の共有 ○全教員のICTスキルアップ・プログラミング教育スキルアップのための研修 年間5回 	100%
児童生活	C106	児童による挨拶運動の励行	<ul style="list-style-type: none"> ○児童会を中心に挨拶運動を展開 ○登校時、教員による挨拶指導 	100%
	C107	「文教っ子八か条」の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○「文教っ子八か条」の理解 ○八か条の家庭への配布とよびかけ ○生活目標への挿入 	100%
進路指導	C108	一人ひとりへのきめ細やかな充実した進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導部を設立 ○充実した進路指導の資料作成と豊富な実践の提示 ○中学受験にむけての個別面談・進路指導 	80%
	C109	付属中学高等学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○本校児童対象の付属中学校説明会に参加 ○付属中学校ならびにBステーション指導者による出前授業への参加 	100%
保護者・地域連携	C110	学校と保護者を結ぶ学校だより学年だよりの充実ホームページの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○月に1回・学校だより・学年だよりの発行 ○ホームページへの行事掲載 	100%
	C111	東急池上線へのボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> ○池上線、石川台周辺への清掃活動 ○駅員の方々へのご挨拶 ○駅員の方々との定期的な顔合わせ ○池上線のイベント参加 	80%

主な実施状況について

C101 顕在層からの志願者の拡大

2017年12月、出願者・受験者の傾向分析と今後の対策の検討を開始した。2018年2月には次年度入学予定者へのアンケートを実施し、本校への意見を基に分析を行った。2018年4月から、分析結果を踏まえ、足を運んでもらうために毎回テーマを変えた説明会を年5回開催した。(第1回:本校の概要・行事 第2回:カリキュラム・進学指導 第3回:1年生の学習・生活 第4回:オーストラリア短期留学 第5回:本の力・年長対象模擬試験)

【評価】毎回テーマを変えることで、回を重ね本校へ足を運ばれる保護者が増え、理解を深めてもらうことにつながった。結果、毎回200組を超える家庭とのつながりを確保できた。

本校の知名度は年々高まっており、本校を第一希望に挙げる家庭も右肩上がりに増えている。この状況に安閑とすることなく、今後も内部外部の声を生かし、志願者の拡大を目指していく。

C102 潜在層からの志願者の拡大

潜在層からの志願者を掘り起こすため、2017年12月、1・2年生の出身幼稚園・保育園を中心に訪問範囲を拡大。卒園生たちの学校での様子を伝えるとともに教育内容をアピールした。また、ホームページの内容を充実することで訪問者の理解促進を図った。2018年4月からは受験冊子や書店売り冊子への出稿を行い、メディア露出を増やすことで潜在層へのアプローチを行った。

【評価】卒園生の活躍を知らせ、本校の魅力を知っていただくことやメディア露出は潜在層へのアプローチとして効果的であり、本校を知っていただき、興味を持つてもらうことで、受験につながるケースが近年みられる。本校が常に進化し続けていることを認知してもらうために今後もメディアを通じた発信を継続していく。2020年度は新たに複数の幼稚教室とつながりを作ったことで、他校とコラボしたオンライン説明会等、今までにない機会を多く得ることができ、潜在層を掘り起こすきっかけとなった。

C103 確かな学力の伸長

文教大学付属小学校型アクティブラーニングを構築するべく、研究授業・協議会の充実を図っている。2018年から調査・分析を行い、2020年には全教員を対象に「授業力アップ講座」を実施、ICTスキルアップのための講座を数多く開催した。9月には「プログラミング授業」を公開した。

【評価】毎年教師一人一人の研究授業や研修を重ねてきたことで、近年、授業力が向上している。日々の授業における「教えられる授業」から「学び合う授業」への革新に加え、毎年実施している各学年のCRT結果を授業に反映させたことも生徒の学力の伸長に結びついている。教師の授業力が生徒の学力の伸長に直結することの証左といえる。

C104① グローバルな人材の育成

言葉や文化、生活習慣が異なる国での留学を通して、英語への関心を高め、国際感覚を身につけることを目的に、2014年度からオーストラリアへの短期留学を実施している。対象は4年生から6年生、時期は夏休み中の8日間。言葉や文化、生活習慣が違う国での留学を通して英語への関心を高め、国際感覚を身につけている。他の私立小学校にさきがけで立ち上げたこのプログラムは本校にとっての大きな目玉であり、特長的な点として、エージェント任せの学校が多い中、事前学習と事後学習、渡航中の児童のメンタルケア、留学先との対応なども教員中心に行っている。コロナ禍の2020年は実施が見送られたが、ノース

レイクスの児童と本校児童との手紙やメール交換、両校長同士のメール交換、ファームの方との写真交換などで親交を深めた。

【評価】参加者は第1期が11名だったが、第5期には50名近くまで増加。小学生のうちに海外留学を経験させたいという理由で入学を希望する方も増えている。感性の豊かなうちにさまざまな経験と国際的感覚を養うこと、子供たちの将来の展望がグローバルな視野を持ったものなることは確実である。また、渡航をきっかけに、英語への関心、かつ英語力の向上にもつながっている。

C104② グローバルな人材の育成

日常的に英語に関わる取り組みとして、児童が英語スピーチを行うイングリッシュタイムの実施や、英語口ボット・英語辞書等を導入、英語絵本コーナーの新設等を行った。年に3回のTOKYO GLOBAL GATEWAYへの参加も行っている。

【評価】早期の語学習得のため、普段の学校生活において、いかに英語を耳にし、口にするかが重要と考え、そのための環境を整えてきたことで、児童の英語力の向上が見られる。今後も日常生活の中のルーティンとなるよう活動を継続していく。

C105 魅力的な授業創り・授業力の向上

2019年4月から全教員が年1～2回研究授業を実施。外部の研修会にも参加し、研修内容を職員会議にて共有した。また、年度末には成果と課題の洗い出しを行い、1年間のアクティブラーニングの総括を行った。

【評価】学校全体として、研究授業を行い、協議会に参加し、授業力を向上させていくという意識のもと、取り組みを行っている。学校全体の教員の授業力をあげることは、学校の活性化につながり、募集にも影響するところである。保護者アンケートによる授業への評価も高まっている。

C107 「文教っ子八か条」の徹底

文教っ子八か条を提示し、学校内での生活における月間目標に落とし込むことで理解・浸透させている。また、家庭への配布と呼びかけを行った。

【評価】下記の八か条の徹底により、「人間愛」を礎に、何を大切に生活していくかを行動に移せるようになっている。生活目標に組み込んだことが効を奏し、「文教っ子八か条」は日常生活に根付いてきている。「当たり前のことを当たり前にしっかりとできること」こそが自立へ向けた第一歩であることを、保護者会や懇親会で保護者と共有しており、学校と家庭が両輪となり動き始めている。

C108 一人ひとりへのきめ細やかな充実した進路指導

2018年4月に進路指導部を設立。2019年4月から6年生の担任と連携し、児童・保護者の面談を実施した。また、全学年教室前に中学受験コーナーを設置し、いつでも興味のある私立中学のパンフレットを手に取り、教育内容を理解できるように、かつ進路に向けての意識を高めるように推進してきた。

【評価】進路指導部の役割が明確化したこと、担任に限らず、組織的に一人一人の児童の受験をバックアップできるようになり、「受験に強い文教大学付属小学校」を確立しつつある。進路指導部の働きにより、児童の進学希望校について進学塾並みに資料や情報が得られるようになった。

「選ばれ続ける幼稚園」の実現

- 入園者60名の確保
- 保護者の満足度9割以上



【達成度】

各施策項目で検討した、目標等に向けた取り組みなど、工程の進捗結果(2021年3月31日まで)がどの段階にあるかをパーセントで示したもので。[20%]:構想段階 [40%]:素案を策定 [60%]:実施計画を策定 [80%]:プログラム、制度、組織、施設等の具体的な計画を実行中 [100%]:プログラムの開始、制度の創設、組織の設置、施設の完成等、計画のすべてを達成

カテゴリー / 4年後の具体目標	No./ アクションプラン	具体的な取り組み内容	達成度
募集・広報 ● 安定した入園者の確保	D101 プレスクールの充実	○プレスクールの内容の充実 ○実施方法や周知方法の工夫	95%
	D102 ファンを増やすための口コミの活用	○世代をつないでいく方策の構築(親子を繋ぐ・満足度を発信する) ○近隣への広報の工夫 ○乳幼児関連施設への広報	95%
	D103 認知度を高め、応募者を増やす	○ホームページへのアクセス回数を増やす工夫 ○それぞれに特色をもった説明会と見学会の実施 ○周辺区への有効な広報 ○応募を後押しできる方策の検討と実施	95%
教育 ● 「生きる力の土台を広げる教育」の推進	D104 新しい幼稚園教育要領への対応	○新しい幼稚園教育要領の理解と本園のカリキュラムの関連性の確認及び見直し ○新しい指導要録への移行準備	100%
	D105 指導力の向上	○指導内容・方法の教員間での共有 ○研修会への参加と研修内容の共有 ○園内研修の充実	85%
	D106 生きる力の土台を広げる「遊び」「運動」「行事」「生活」の指導の実施	○生きる力の土台(人間力の源)を育む教育活動の推進 ○各学年の指導の工夫と園児の変容の記録	100%
	D107 動植物と触れ合う機会を増やす	○新しい動物小屋での飼育についての共通理解と動物の購入計画 ○新園舎に相応しい草花や野菜の栽培についての共通理解と田植えや稻刈りの指導の引き継ぎ	100%
研究 ● 時代の変化に対応した幼稚園の在り方の構築	D108 勉強会の実施	○品川区における少子化や保育園の現状把握 ○働く女性の増加への対応策についての研修 ○地域ニーズの把握と対応策の検討 ○講師を招聘した研修会の実施	80%
	D109 少子化と共に働き家庭の増加に対する幼稚園の将来展望の検討	○幼稚園の将来展望についての検討 ○将来展望の中間まとめの作成	80%
園児生活 ● 「素直で明るい元気な子ども」の永続的な実現	D110 挨拶や食事のマナー、手洗い、うがい等、基本的な生活習慣の習得	○重視する「基本的な生活習慣」の再確認 ○毎月の目標設定と周知	90%
	D111 保護者との「園児の成長のストーリー」の共有	○エピソードで綴った「園児の成長のストーリー」の作成 ○保護者への発信	90%
	D112 “文教スタイル”的共有(教職員・保護者)	○“文教スタイル”的発信 (文教スタイル:「認める・見守る・ともに楽しむ」という保育・指導のスタイル) ○保護者との共有	90%
進路支援 ● 付属小学校を含めた希望の小学校への進学実現	D113 “学ぶ、をあそぼう。”の強化	○真の学ぶ力(意欲・見出す力・実行力)を育てる教育活動の推進	90%
	D114 付属小学校との連携	○付属小学校との連携行事の工夫 ○付属小学校推薦に向けた有効な方策の検討	90%
	D115 「文教幼稚園教室」の本格実施	○本格実施に伴う体制づくり ○「文教幼稚園教室」の広報の工夫 ○年3回の特別講演会の実施 ○担任との情報共有の工夫	90%
保護者・地域連携 ● 「保護者との連携重視の幼稚園」と「地域ニーズに応える幼稚園」の発信	D116 園児の成長を保護者とともに楽しむ活動や環境の構築	○保護者との連携の工夫 ○保護者の活動の楽しみ方の発信 ○負担にならない楽しみ方の提案	90%
	D117 幼稚園が求める家庭の明確化	○幼稚園が「求める家庭・保護者」の再確認 ○「本園は次のようなご家庭にピッタリです」(8項目)の再検討	95%
	D118 地域や家庭のニーズの把握とそれに応える方策の検討	○地域や家庭のニーズの把握と方策の検討 ○プレスクール前の幼児対象の企画の検討	95%

主な実施状況について

D101 プレスクールの充実

2017年5月から、内容を精査しつつ継続的にプレスクールを実施(年8回)した結果、2019年度まで平均150名の登録があり、各回で約100組の参加者を得た。入園者の約9割がプレスクール体験者であることから重要な取り組みと考える。2020年度入園考査では、出願者数が減少したことから、プレスクールの見直しを図り、参加者には登録料(初回1,000円)を課して、本園に入園したい方を優先に実施した。2019年度と比較すると、登録者は2割ほど減少したが、2019年度と同様の参加者を得ることができた。

【評価】プレスクールに参加した本園の保護者アンケートから「このプレスクールに参加したことが入園のきっかけ」との回答を数多く得ており、本園をより理解してもらうための効果的で実践的な広報手段だと考えている。また、ホームページのリニューアルは、プレスクール申し込みの際に、幼稚園の魅力を十分に感じてもらっている。プレスクールは、募集・広報の中心として位置付けることができた。

D103 認知度を高め、応募者を増やす

2017年5月から幼稚園フェスタに参加し、幼稚園教室対象幼小合同説明会も開催している。その他、保育見学会を年3回、幼稚園説明会、入園説明会を継続的に開催した。この参加人数で志願者の増減がほぼ予想できるため、園児募集に重要なイベントと位置付けている。2019年10月からは入試直前個別相談会も実施し、説明会等を聞き逃した保護者を対象に丁寧に個別相談を行い、今後の応募を後押しした。2020年9月にはホームページをリニューアル。保護者目線で画像や動画を多用することで、スマホでも内容が伝わり、アクセスが増加した。

【評価】2020年4月、5月の2か月間は新型コロナウィルスの影響で休園せざるを得なかったが、ホームページでYoutube動画を30本配信したところ在園児や卒園児からの反応が良く、オンラインの重要度を認識した。また、3密を避けるため自由参加の相談会・説明会から登録制へシフトしたことは、事前にデータを収集できることから、今後の募集活動に有用だと考える。リニューアル後のホームページは、外部からの問い合わせ等に対し効果的であり、特にコロナ禍においては、家庭のパソコンやスマートフォンでの検索が増えたことから、リニューアルも成功したと考える。

D107 動植物と触れ合う機会を増やす

稲作は例年の行事として実施し、プランター栽培で5月に田植え、10月に稻刈りを行っている。2018年4月にウサギ、5月にチャボを飼育し始め、プランター花壇には、ミニトマトやキュウリを栽培し、園庭の隅には2畳ほどのサツマイモ畠を作り、サツマイモ掘が体験できた。2018年5月には園庭に古代蓮を移植し、園児に本物の蓮の花を見せるにより、園章の由来を教えることにつなげた。2020年10月には子カメが4匹孵化、新しい命の誕生を園児達で祝うこともできた。

【評価】動植物との触れ合いを通じて、お世話をする機会の工夫を教育と結びつけることは、本園の特長の一つと考えており、ホームページ上でも公開している。動物を飼育している幼稚園は近隣にないため、園児を含め、プレスクールでも幼児・保護者共に好評を得ることができている。

D111 保護者との「園児の成長のストーリー」の共有

毎日降園時に担任教員から保護者にその日のエピソードを報告。2020年4月からは、園内掲示板にて前日の主なエピソードを写真で紹介した。また、ホームページに「ときどき日記」としてブログを連載し、幼稚園の保育や園庭での草花、動物たちなどの様子を紹介した。

【評価】この取り組みを行うことで、保護者が保育内容を理解とともに、昨日幼稚園で何があったのか、何が楽しかったのかを親子で話し合えることに繋がり、「子どもの成長を知る」第一歩にできた。保護者との「園児の成長のストーリー」の共有は毎日の積み重ねが大事であり、継続していくことで効果が期待できる。

D115 「文教幼稚園教室」の本格実施

「文教幼稚園教室」伸芽会(=文教幼稚園教室)報告会を毎月1回、伸芽会特別講演を年3回、継続して実施した。2018年11月にはひよこ組(年中クラス)実施に向け検討開始、4月には特別講演会の定例化、5月には家庭でのしつけ、9月には家庭学習のポイント、1月には入試結果を分析した講演会を実施した。

【評価】2019年10月から幼稚園無償化に伴い、様々な幼稚園教室やスポーツクラブへ関心が高まっており、本園の幼稚園教室にも強く関心を寄せられている。また、在園の保護者からは、小学校就学に向けどのように育てていったらよいかなどの要望に対して、年3回講演会(毎回30名程度参加)を実施しており、参加者から好評を得ている。伸芽会は、毎週2回(年中クラス、年長クラス)実施しているが、年長クラスは定員10名を超える申し込みがあり人気を博している。

D116 園児の成長を保護者とともに楽しむ活動や環境の構築

2018年4月に保護者の楽しみ方を情報収集。2019年4月には「おやじの会」を充実し、保護者との連携を検討しながら幼稚園のイベントを実施してきた。

現在では、4月「花まつり」「親子レクレーション」、5月「こどもの日を祝う会」「梅組ひよこ組親子遠足」、6月「親と子の観劇会」、7月「みたまつり」「七夕まつり」、9月「敬老お招き会」「文教まつり」、10月「運動会」「芋ほり遠足」、11月「歩き遠足」「親子レク」、12月「餅つき」、2月「生活発表会」を実施している。

【評価】保護者は我が子と楽しむ機会を増やしたいと考えていたので、保護者の負担をできるだけ軽減し、各種行事への保護者の参加率UPを図れるよう検討を重ね、負担にならない楽しみ方として「おやじの会」では、「できる人ができる時に出来ることをする」というスローガンを掲げ、保護者に広く認知されるようになった。

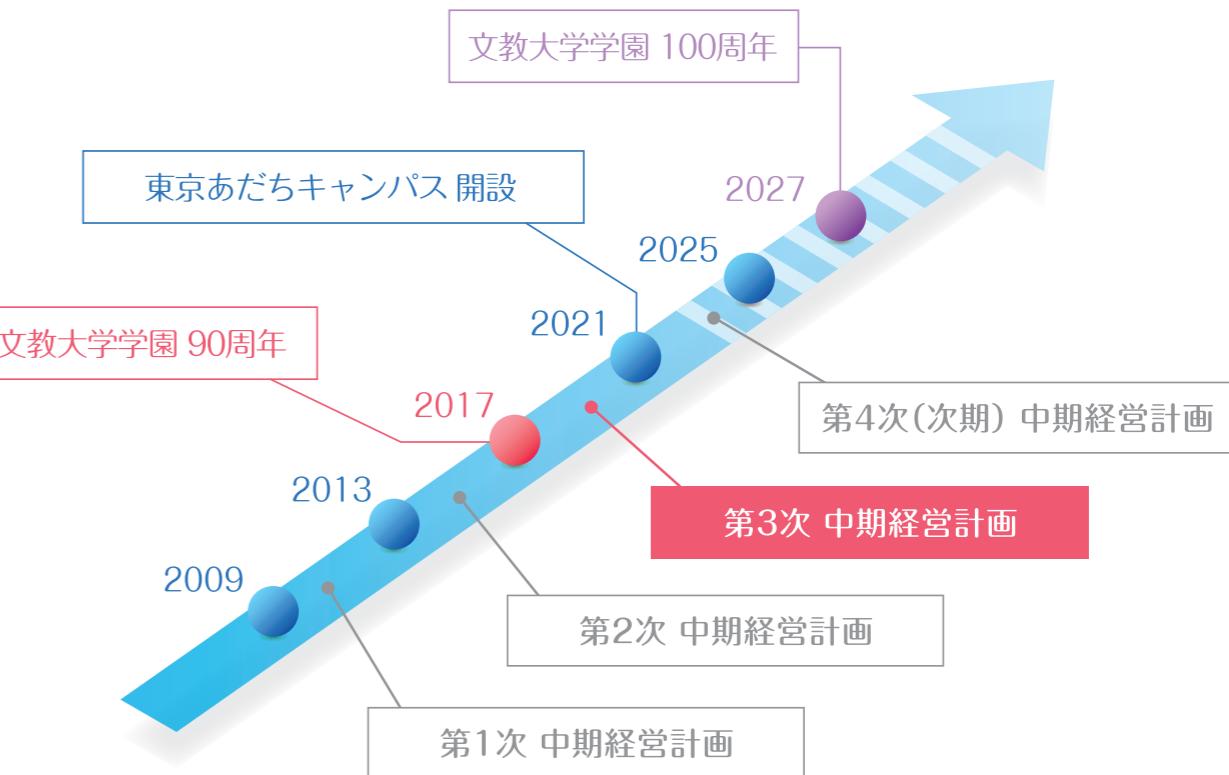
「教育環境」、「財政」、「組織」、「広報」のカテゴリーごとに、事業を重点化し、各校の計画を下支えする



カテゴリー / 4年後の具体目標		No./ アクションプラン	具体的な取り組み内容	達成度
教育環境	●競争力を持った教育環境の整備	K101 東京あだちキャンパスの開設	○開設スケジュールの完全な履行の管理	90%
		K102 越谷・湘南キャンパス環境の向上	○学生生活環境を重視した事業計画の策定と実施	100%
	●強固な財政基盤の確立	K103 学園財務の徹底管理	○中期財務計画の策定と履行の管理	80%
		K104 学習者の安定的確保	○在籍者数計画の策定と履行の管理	80%
		K105 補助金の安定的確保	○補助金計画の策定と履行の管理	40%
		K106 寄付金事業の推進	○寄付金の募集活動の継続	60%
		K107 経費の検討と変更	○経費計画の策定と履行の管理	80%
	●変化に対応できる組織力の強化	K108 ガバナンス体制の強化	○経営と教学の情報共有の実施	50%
		K109 リスク管理体制の強化	○学園危機管理体制の確認と周知の実施	80%
		K110 学園校友会との連携強化	○学園校友会を通じて、校友及び校友団体との連携・強化	80%
広報	●戦略的広報活動の展開	K111 東京あだちキャンパスをキーとした新しい「文教大学」の広報展開	○東京あだちキャンパス開設前後(2017年度から2022年度)における効果的な広報展開計画立案 ○年度毎に伝えたい内容と対象のフォーカスを設定 ○各訴求対象(一般、関係行政機関、地域住民、受験生、高校、教職員、学生、保護者、卒業生)に合わせた適切な広報活動の設定 ○計画に沿った実行と管理	80%
		K112 受験生ニーズに応える募集支援広報の重点化	○受験生ニーズに即したプロモーション企画・ツールの研究とその整備 ○各校、各学部HPの整備支援 ○SNS等を利用した情報発信強化 ○プレリリースの強化(数と質)	80%
	K113 効果的かつ戦略的な広報活動に向けた基盤整備	○広報活動の組織的な連携強化(学園広報委員会の活用やインナー向け説明会等の実施など) ○広報コンテンツの組織的発掘体制の整備	80%	



文教大学学園 中長期計画の推移



第4次中期経営計画の策定に向けて

18歳人口が大幅に減少する中、グローバル化や第4次産業革命と呼ばれる技術革新、入試制度改革等本学園を取り巻く環境が大きく変化していく中で、「将来の学園のあるべき姿、そこに到達するための道筋を主体的に描く工程表」の重要性が高まっています。更に、学校法人がより社会からの信頼と支援を得ていくためには、中期経営計画を通して、社会に対し、学園の目指す方向性や具体的な計画等、「社会的存在意義」を示すことが必要であり、学園運営の可視化および積極的な情報公開を図ることが、「プランディング」そのものとなっています。

そのような中、学園の現状としては、近年、志願者や入学者確保の困難さが見受けられ、より競争力を高める仕組みが必要とされています。改めて、中期経営計画の必要性・重要性が認識される中で、本学園はこれまで、第1次(導入期)、第2次(確立期)、第3次(発展期)の中長期経営計画を推進してきました。更なる発展期と位置付けている第4次中期経営計画は、浮かび上がった各種課題を改善し、より競争力が高まる計画に策定していきます。

建学の精神「人間愛」

「人間愛」とは、「人間性の絶対的尊厳と、その無限の発展性とを確信し、すべての人間を信じ、尊重し、あたたかく慈しみ、優しく思いやり、育むことである」。
「人間愛」の精神は、なによりも「生命(いのち)を大切にする心」の上に成り立っています。
すなわち、私たち一人一人の生命(いのち)は、それが誰の生命であっても、かけがえのないもので、何ものにも換え難く大切であると考えます。「人間愛」の精神は、人と人との認め合い、尊敬し合い、許し合い、思いやり、そういう社会が必ず実現することを望み確信する心です。
これを学園のミッションとし、各学校で実践しています。今日では、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、外国人留学生別科、大学7学部、専攻科、大学院5研究科を擁する総合学園に発展してまいりました。
教職員と子ども、子どもと子ども、教職員と教職員の間で「人間愛」の精神が醸成され展開されています。